

鹿児島の植物 69

毒のある植物・キノコ

植物担当 久保 紘史郎

トリカブト類（キンポウゲ科）

毒草で有名なトリカブト類ですが、鹿児島にもハナカズラ（ハナヅル）とタンナトリカブトの 2 種が自生しています。トリカブトという名前は、花の形が雅楽で使用されている鳥兜（鳥甲）に似ていることから来ています。

毒性は非常に強く、誤って摂取すると、10～20 分ほどで口や手足のしびれから、不整脈、血圧低下、呼吸不全などをおこし、最悪の場合、死亡します。有効な解毒薬はありません。



トリカブトの 1 種ハナカズラ

キョウチクトウ（キョウチクトウ科）

乾燥や大気汚染に強く、育てやすいため街路樹としてよく利用されています。しかし、毒成分は強く、食べると頭痛、嘔吐、意識障害を起こして死に至ることもあります。

飼料に混入し、家畜が死亡する事例が 1980 年千葉県や 2011 年大分県で報告されています。また、牛の致死量は 50 mg/kg で 500 kg の成牛でも 25g を摂取すると死亡します。



キョウチクトウ

ドクツルタケ（テングタケ科）

わずか 1 本でも食べると、適切な処置を行わない限り、死亡します。食後 6～24 時間後に、おう吐、下痢、腹痛が現れますが、その症状は 1 日でおさまります。しかし、その後 24～72 時間で肝臓や腎臓の細胞が破壊され、死に至ります。

非常に毒性が強いため、食用キノコと間違えると取り返しのつかないことになります。しっかりと知識を持たずに、キノコを採集して食べる行為はとても危険です。



ドクツルタケ（提供：黒木修一）

カエントケ（ボタノタケ科）

極めて強い毒性を持ち、致死量はわずか 3g。触るだけでも危険で、汁が皮膚につくとただれます。食後 30 分程度で、腹痛、下痢、嘔吐などの消化器系の症状があらわれます。2 日後に、消化器不全、小脳萎縮による運動障害など脳神経障害により死に至ります。

カエントケは、コナラなど、ブナ科樹木が枯れると発生します。カシノナガキクイムシという害虫がブナ科の樹木を枯らす「ナラ枯れ」が全国的に発生しており、それに伴いカエントケの発生件数も増えています。



カエントケ（提供：黒木修一）